

腕の力に限界を感じた僕は、糸を持った手を腰に抱え、一歩ずつ後ずさりをした。ぐぐん、ぐぐん。

「出た、出た。いいぞ、いいぞ。ヒロキ、ウナギが出てきた」

「ヒロキ、あとちょっとだ」

次の瞬間、ズルンツという感触が手に伝わり、糸が軽くなった。

（やったー）

ついに僕たちは、大ウナギを穴から引きずり

出したのだ。

わたしは、学校の授業でウナギの放流をしたことがありません。その時、さわってみたら又ル又ルしていて泳ぎが速くてびっくりしました。ウナギが又ル又ルしていることは聞いたことがあつたけれど、あの感触や力強さはけいけんしないと分かりません。ヒロキやユウヤのっつかまえられるかな。というドキドキと、達成感が伝わってくるこの場面が一番好きです。

わたしにもそんな、ワクワクしたけいけん
があります。春の山では、チヨウウをつかまえ
ました。アゲハチヨウウかと思っ、ていましたが、
羽を見てみたら少しちがって、写真をとって
帰りました。図かんを見たらギフチヨウウで「
春の女神」と分かりました。「こんなすごい
もの」と、たんだいとうれしくなりました。夏
の川で遊んでいたら、かるがもの家族を見ま
した。りくと川の間へのしげみに入っ、て行っ、た
ので家なのかなと思いました。体の大きい親
の後ろにちよこちよこすいすい泳ぐきょうだ
いがかわいかったです。夏の海では、魚をと
りました。つかまえようとすると、気配でにげる
ので、まちぶせして一気にすくい上げました。
一匹だけ宝石のようにキレイな魚がとれて
ウキウキしました。

わたしは、この世界中にある自ぜんについ
て、今まで深く考えたことはありませんでし
た。けれどこのお話を読んで「自ぜんの役わ
りとは何か」と、疑問に思うようになりました

た。ユウヤとヒロキの自ぜんをめぐるぼうけんは、自ぜんにすむ生き物がたくさん出てきます。わたしの好きなノコギリクワガタ、きけんなキイロスズメバチ、毛が生えてあつたかいコウモリなど。おばけ池にはウナギ以外にもめずらしい生き物がいました。作者は、生き物のくらし方を教えてくれて、その生き物たちのくらしにたいして、わたしたちがどのように関わるのかを考えさせてくれたのではないでしょうか。

自ぜんの役わりとは、生き物を生かすことだと思っています。そして、わたしたちは、生き物を生かすかんきょうをこわさないことが大切だと思っています。わたしが大人になっても世界中が今以上に自ぜんゆたかで、生き物がすみやすいかんきょうになつてほしいです。そのためにも、わたしは、生き物のくらし方やミカをみんなにつたえていきたいです。